



中国五県軟式野球大会呉支部予選

4月30日(日)～5月28日(日)にかけて、第56回中国五県軟式野球大会呉支部予選が開催され、26チームが参加しました。

坂町体育協会軟式野球部が優勝し、7月15日(土)・16日(日)に開催される広島県大会への出場権を獲得しました。



▲坂町体育協会軟式野球部

広島県高等学校空手道選手権大会

5月6日(土)・7日(日)に第44回広島県高等学校空手道選手権大会が開催されました。

形競技の部

- 個人戦 男子の部 3位 山本 和樹
- 団体戦 男子の部 3位 安芸南高等学校 (山本 和樹、清家 慶人)

組手競技の部

- 団体戦 男子3人制の部 優勝 安芸南高等学校 (山本 和樹、清家 慶人)
- 男子5人制の部 優勝 呉港高等学校 (片岡 道汰)



▲片岡君

なお山本君、清家君、片岡君は、中国高等学校空手道選手権大会への出場権を獲得しました。

中国高等学校空手道選手権大会

6月17日(土)・18日(日)に鳥取県で、第39回中国高等学校空手道選手権大会が開催されました。

形競技の部

- 団体戦 男子の部 3位 安芸南高等学校 (山本 和樹、清家 慶人)



▲左から 山本君、清家君

広島県高等学校総合体育大会 空手道競技の部

5月27日(土)・28日(日)に第76回広島県高等学校総合体育大会空手道競技の部が開催されました。

形競技の部

- 個人戦 男子の部 3位 山本 和樹
- 団体戦 男子の部 3位 安芸南高等学校 (山本 和樹、清家 慶人)

組手競技の部

- 団体戦 男子3人制の部 2位 安芸南高等学校 (山本 和樹、清家 慶人)
- 男子5人制の部 優勝 呉港高等学校 (片岡 道汰)

なお片岡君は、7月26日(水)～29日(土)に北海道で開催される令和5年度全国高等学校総合体育大会空手道競技の部への出場権を獲得しました。

広島県空手道選手権大会

6月4日(日)に第47回広島県空手道選手権大会兼第78回国民体育大会広島県選考会が開催され、谷 柊瑛さん(小屋浦三丁目)が、成年男子形競技の部で優勝しました。

これにより、7月22日(土)・23日(日)に山口県で開催される第45回中国地区空手道選手権大会への出場権を獲得しました。

でも、一人一人が造る色とりどりの世界で、さらに自分だけの世界を造れることが、目標の先にある素晴らしいものだと思う。

忘れかけていた思い
坂中学校 三年 田下 翠

「アンサンブル・コンサートは中止になりました。」

その言葉を聞いて、体の力が抜けた。吹奏楽部に入って一年近く。頑張って練習してきた成果を出せると思っていたのに、いきなりの中止。目標が急になくなってしまう。脱力感と共に、どこにぶついたらいいのかわからない怒りが込み上げてきた。せつなく頑張ってきた練習してきたのに、またか！」

新型コロナウイルスが流行してから何度か経験したこの悔しさ。



坂中学校 三年 田下 翠

振り返ればこの二年間、計画していた家族旅行や外食など、楽しみにしていたイベントを何度も諦めてきた。何を目標に頑張っていたのか、何を楽しくしていたのか、何を楽しいのか、もう、何をやってても無駄なのではないのかとさえ思えて、モチベーションが下がってしまった。

そんな思いで日々を過ごしていた時、テレビで流れたウクライナの戦争。多くの人達が住む場所を奪われ、やりたいことや、食事も思うように出来ず、無差別に命を奪われている。そんな状況でさえ、国のために、命を守るために戦っているウクライナの人達。そのような状況がメディアを通じて日々伝えられていた。

私が今抱えている不満は、ウクライナの人達にはどのように感じられるだろうか。多分、ウクライナだけでなく、私の知らない場所でも戦争や飢餓から命を守るために戦っている人にとっては、取

るに足りない問題のほずだ。思い返せば、私も四年前、西日本豪雨災害で町が被災した時、命の危険を身近に感じた。一夜にして町の光景が変わり、町内や近隣地域の方がたくさん亡くなった。当たり前前の日常が一瞬で変わってしまった。恐ろしさを経験したはずなのに、当たり前前の日常がどんなに尊いものか身を持って経験したはずなのに、忘れかけていた自分に気が付いた。

中学二年生になって、行動制限が緩和された頃、相変わらず中止になった行動もあったが、みんなの前で演奏できる機会もあった。練習の成果を見てもらい、拍手してもらった時、久々の感動と充実感を味わった。みんなに演奏を聴いてもらえる機会があることが、どんなに嬉しいことか、コロナがなければ、このまま忘れかけていたと思うし、ここまで心が動かなかったかもしれない。私が不満を口にした時

に、母が、「足るを知る」という言葉を教えてくれた。古代中国の思想家、老子の言葉である。この言葉は、現在の自分の状況に満足する、今日の前にあるものに対して感謝する、という意味だ。

コロナ禍で、様々な制限がある中、不満ばかりで過ごすのではなく、今できていることに感謝しながら生きていくことが大切なのだ、この言葉を聞いて感じるようになった。

近い将来、コロナのワクチンや治療薬の開発が進み、コロナへの対応も変わってくるかもしれない。そういう時期が来たとしても、災害やコロナで経験したことを思い出して、今の状況に感謝することを忘れず、そして、困難な状況に陥ったとしても、感謝の気持ちを持ち続けられる強い人間になっていきたい。

※青少年の主張作文は、昨年度募集し、審査したものです。

FC坂ジュニア ベイサイドビーチクリーンアップ

5月3日(水・憲法記念日)にFC坂ジュニアが、坂駅から頭部見晴らしコースの遊歩道散策及び、ベイサイドビーチ坂のゴミ拾いを行いました。

